



市民が主役のまちづくりを 布目ゆきお 市政直行便

2011年新春号
NO. 24

【編集・発行】市民ネット
長野市議会議員・布目裕喜雄

〒380-0961
長野市安茂里小市 1-4-10
自宅 ☎ 227-3537 FAX 227-3897
URL = http://www.nunomeyukio.jp

日々の暮らしに安心のセーフティネットを 新年度予算に向け重点施策を要望

12月議会の最中である12月16日、2011年度の予算編成に向け、市長に市民ネットで「平和を希求、人権を尊重、自治を実現…安心・安全が市民の心に響く長野市政」を求め、11の重点政策、68項目の重点施策を予算要望しました。

市長は「重点の置き方、優先順位の問題は残るものの、多角的な施策の要望は参考になる」と前向きな姿勢を見せました。

施策の優先順位、重点にこそ、基本的な政治姿勢が現れます。私からは、特に利用者負担の値上げ凍結、公契約条例の制定、第三者による行政評価システムの構築などを強く要望しました。市長とのやり取りを中心にいくつかのポイントを報告します。【写真は市民ネット・池田清代表と市長に要望】



■ポイ捨て防止条例の制定にあたっては、罰則規定に慎重に対応を

市長…「罰則の規定化を求めている意見もあるが、監視のため人とお金が必要であることから、慎重に考えたい」

■住民自治協議会に十分な財政支援を

市長…「予算化の方向で検討中」、また住自協の活動について「全体的には順調に前進している。初年度としては大きな成果があった」と評価。

■公契約条例の制定を

市長…「民間との契約に行政が法を上回る基準をつくるのが果して良いのかといった点など、今の段階ではわからない部分もある。全国的な状況を見ながら検討していきたい」

■指定管理者に対する評価

や事務事業の行政評価は、市民参画の第三者機関で

市長…「第三者機関による評価は必要だと思うが、人選を含め外部をどのように扱うのか、迷っている。事務的な難しさもある。検討は進めたい」

■第一庁舎、市民会館の建設はもっと市民への説明を

市長…「いろんな意見を聞いてまとめてきた。施設の建設地はまとまった。A、B二つの案をたたき台にして、より良い施設にする検討を急ぎたい」。

■権堂地区の再開発はゼロベースで検討し直しを

市長…「市民会館とは完全に切り離している。地元意向があり、これを尊重しながら、それこそゼロベースで検討する」

■市民病院に産科の新設を

市長…「医師会の協議が必

要だが、医師会からは産科は充足していると聞いている。産科開業医の将来見通しに課題があるか、調査する」

■こども部の設置を

市長…「議会から要望されている問題。検討はしているものの、幼保一元化など国の方針が定まっていないこともあり、引き続き検討したい」

■小中学校の芸術鑑賞予算や図書購入費の復活を

市長…「教育委員会には予算の総枠を示している。耐震化に重きを置いた結果だろう。全体の中で判断したい。」「学校へのエアコンや扇風機の設置も全体の枠で考えたい」

■長野電鉄屋代線は鉄道で存続を

市長…「活性化協議会の検討に委ねている」 (以上)

…屋代線「見切り廃止」…

住民合意無き「廃止」は有効か

公共交通の存廃、住民合意は絶対必要条件

利用者の減少から赤字が続き、「独自の運行は困難」(長野電鉄)としていた長野電鉄屋代線の活性化・再生を協議してきた「長野電鉄活性化協議会」は2月2日、「鉄道を廃止しバス代替運行に転換する」方針を多数決でまとめました。廃止と存続は14対11、僅か3票差です。

協議会は今後、屋代線の替わりに走らせるバスのコースなどについて話し合い、コースが決まった後、長野電鉄が国に屋代線の廃止届けを提出することになります。

沿線の住民の皆さんは「実証実験の継続」を求め、屋代線存続に期待をつなごうと真剣な取り組みを始めていますが、顧みられることがありませんでした。住民合意無き廃止決定は、公共交通の活性化・再生に大きな禍根を残す決定といわなければなりません。鉄道はいったん廃止すれば、復活が困難。これで終わりにするわけにはいきません。



廃止決定がはらむ 重大な誤り

私は、多数決で「廃止」とした決定は「協議会の総意とはいえない」と考えます。地域公共交通活性化再生法に照らして、三つの重大な誤りがあるのではないのでしょうか。

①鉄道再生の目的を逸脱

一つは、そもそも屋代線の再生が目的である協議会が「鉄道の廃止」を結論付けることは、協議会の目的を逸脱していることです。上下分離方式や第三セクター方式、またディーゼルへの転換など新しい運営形態への移行の検討は、十分な議論がないまま、費用対効果から「バス代替が優位」との方向性を導きだし、協議会の議論をリードしました。費用面ではバス代替が優位であっても、鉄道の社会的意義を捉え、新しい運営形態のスキームについて優先順位をつけ、公的支援を真剣に検討した形跡は乏しいといわなければなりません。「廃止ありき」の

議論になっていると批判される所以です。

②住民合意は絶対必要条件

二つは、沿線住民との合意がないことです。協議会の根拠である地域公共交通活性化再生法の趣旨は、「事業者まかせ」から利用者・住民、事業者、行政の連携・協働で国・自治体の公的支援＝税金の投入をもって公共交通の再生を図ることにあります。従って、沿線住民との合意は絶対必要条件なのです。「実証実験の継続」を求める沿線の住民自治協議会は「廃止」に合意していません。住民との合意無き決定は、法の想定外です。

③委員構成にも疑義

三つは、協議会の委員構成の問題です。沿線住民代表に「千曲市地域公共交通会議」(これもまた法に基づき設置されたもの)の代表として千曲市行政の理事者(市民生活部長)が選任されていたことは看過できません。公正・公平な委員の選任となっていないということです。また、利害関係者である当事者が少ないことも課題であるといわなければなりません。

「線路は続くよ、どこまでも」…鉄道に生活があり文化があります。だから、つなげたい!

活性化協議会は原点に戻り、議論し直しを

◆屋代線は貴重な社会資本 だから継承をめざしたのでは？

3年間の「長野電鉄屋代線総合連携計画」は、屋代線を「必ずしも経済効率性だけで評価するのは適切ではない」との位置付けのもとに、「貴重な社会資本である屋代線を持続可能な鉄道として、次世代に継承できるような方策を検討する」（計画より引用）ために策定された計画です。屋代線を廃止しバス代替とする結論を導き出すために策定された計画ではありません。

◆実証実験の道半ばでの 結論は時期尚早

行政側は「市民アンケートや実証実験の結果を踏まえて協議会が客観的に判断した結果。委員の皆さんが決めたこと」と協議会の決定に責任を委ねる姿勢に終始しています。「客観的な判断が重要」というのであれば、屋代線活性化のために総合連携計画に盛り込んだ27事業全ての利用促進策を実験した上で、結果を検証し、客観的な判断がされるべき。実証実験半ばでの結論は、余りに拙速で無責任です。

◆交通ネットワーク崩れ まちの衰退が懸念

鉄道を廃止しバスで代替させることは、マイカーへの乗り換えを助長し、地域公共交通の衰退を加速させ、ひいては駅がランドマークになっている河東地域のまちづくりを減退させることにつながりかねません。

◆受け入れ難い「廃止」

活性化協議会は原点に戻って議論のやり直しをすべきです。住民の求めに応え、後1年、実証実験の継続に活路を見出す再検討を強く迫りたいと考えています。

【長野電鉄屋代線？】

長野電鉄の発祥の路線だが、利用者数は1965（昭和40）年度の約330万人をピークに減少、09年度は約46万人に減少。単年度赤字は約1億7000万円、累積赤字は50億円を超え、今後、約31億円の設備投資が必要とされる。活性化協議会は昨年5月、地域公共交通活性化再生法に基づき、長野、須坂、千曲3市や住民代表、長野電鉄などで設立。本年度、電車の増便、終電時間の繰り下げの実証実験など18事業を実施。3か月の取り組みだが利用者は約1割増加している。46万人の「足」、大事にしたい。

市民会館、現在地で庁舎と合築で決着

■基本計画（案）、3月に市民意見

紆余曲折を経て、ようやく現在地で建て替えることになった市民会館について、2月中に基本計画（案）が策定され、3月にはパブリックコメントが実施されます。

■市民会館廃止条例、可決に

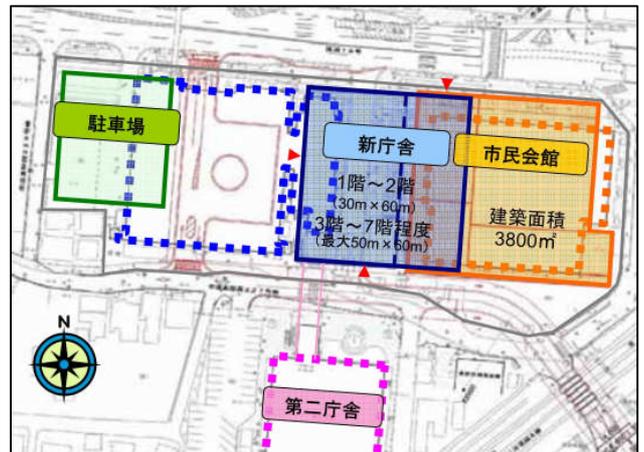
1月17日の臨時議会で、市民会館の利用を3月末で停止する条例を、賛成多数で可決。出席議員39人の内32人が賛成、特別多数議決となる3分の2に必要な26人を超え可決しました。私は廃止に賛成しました。

■「市民にもっと周知を」の提案実り、信毎に「お知らせ」掲載

市民合意は、まだまだ努力すべき課題。市側に、市民に情報をしっかり周知し意見を聴き続けることを求め続けた結果、信濃毎日新聞（1月23日付・地域面）での周知に実りました。

■芸術文化の交流発信、会館運営・維持管理などソフトの議論へ

今後、市民会館は第一庁舎と合わせて、中身の議論に移行することになりますが、敷地的に制約がある現在地で、新市民会館に求められる役割・機能をどこまで、どのように盛り込むのか、何を活かし何を我慢するのかといった選択の議論が必要になると思います。多様な意見を呑み込んで「あれもこれも盛り込む」ことになりはしないのか、冷静に検証したいと思います。



Mウェブの太陽光発電システム、 国補助見込めず、導入断念も

3億円をかけて整備を予定するMウェブへの太陽光発電設置について、約4,000万円の国補助金が見込めなくなったことから、今後の国の動向次第では「計画を断念せざるを得ない」としました。

私は9月議会で、がん検診等の受診料値上げに関連して、がん検診等に3億円かけていることに着目し、Mウェブの太陽光発電よりもがん検診の値上げをしないことを求めてきた経過があることから、「計画断念」はある意味、朗報です。費用対効果を考えた優先順位の問題です。

がん検診等の値上げは見送りに

凍結を求め続けてきたがん検診等の値上げについて、新年度からの実施は、医師会などからも「受診率の低下につながる」との意見が強くだされ、見送らざるを得なくなっています。9月議会で凍結を迫った私としては「やはり、そうでしょう」と言いたいところです。値上げを食い止め、受診率向上に努力したいと考えます。

安茂里の乗合タクシー＝新年度、 本格運行へ



安茂里地区で実験運行されてきた「乗合タクシー」は、今年度実験の10路線の内、利用者数の基準を唯一達成し、4月から本格運行されることに。朝の便が一便増発され、路線が一部変更。長野駅周辺への乗り入れは、今のところ検討課題として先送りされました。バス停及び待機場所を模索し、引き続き実現を目指したいと思います。

差出地区・「食肉センター」跡地の 公園整備、新年度から整地工事へ

差出南地区の(旧)食肉センター跡地に整備する計画の安茂里地区公園は、新年度に整地工事に着手する見通しです。安茂里地区では、近隣住民アンケートの結果をまとめ、住民手作りの公園整備に向けた検討が着々と進んでいます。安茂里地区全体の公園として親しまれる憩いの場所となるよう、住民の皆さんと力を合わせる所存です。

12月議会トピックス

◆市民会館の建て替え、権堂の再開発、地域公共交通、中山間地域の活性化、住民自治協議会の活性化などが論点となった12月議会。
◆追加提案された教育委員などの人事案件を含め、市側が提出した約22億円の補正予算案をはじめ、ゴミポイ捨て防止条例案、廃棄物の適正な処理の確保に関する条例案など計75議案が原案通り可決しました。
◆私は市が提出した議案には賛成しましたが、武器輸出三原則の堅持を求める請願を継続審査としたこと、ILO条約に基づき、医療・介護労働者の大幅増員と夜勤改善を求める請願を不採択としたこと、また、年金引き下げをしないことを求める請願を不採択としたことなどについては反対しました。
◆選挙管理委員の一人は、議会事務局員のくじ引で当選に。立候補制をとらない選挙方法に違和感です。

3月議会、2月25日に開会

新年度予算案等を審議する3月議会が2月25日から3月23日までの会期。一般質問を行う予定です。ご意見・ご要望をお寄せください。



◆屋代線問題を協議する公共交通特別委の様子がSBCで報道されました。◆国では交通基本法が制定される見通し。国民の移動する権利が焦点に。◆特別委副委員長として、鉄道・バス・タクシーのそれぞれの社会的意義を踏まえ、総合的かつ広域の公共交通ネットワークの構築を求めています。超高齢社会、地球温暖化への備えです

編集後記 ◆5年ぶりの大雪に、改めて除排雪が課題に。向う三軒両隣作戦、地域の絆が大切に◆春遠からじ…背筋を伸ばしたくなります。新年会シーズンを終え体調も回復へ。中旬には人間ドッグです◆4月の県議選はしのぎを削る激戦に。9月への備え、今からです◆3月6日(土)午後3時からサンパルテ山王で市政報告会を計画。問合せは自宅まで◆立春を過ぎたとはいえ、寒さは続きます。ご自愛を(布)